

試験研究成果普及情報

部門	森林・林業	対象	行政
課題名：多様化した木材利用に係る木材流通状況の把握			
<p>[要約] 県内の素材生産では、製材・合板用に比べてチップ用生産が多い。また、非赤枯性溝腐病材の取扱いは各社の方針によって様々であった。木材加工業者の木材調達においては、県内産材であることが重要視されているが、価格及び供給の安定が求められている。本県での広葉樹材の流通は非常に少なく、マテバシイ材の利用も限定的である。</p>			
キーワード 木材、流通、木質バイオマス利用、マテバシイ			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター	森林研究所
	協力機関	森林課	
実施期間	2018年度～2020年度		

[目的及び背景]

本県の木材関連事業者は小規模経営体が多いこともあり、流通実態等が十分に把握できていない。その中で、木材の新たな需要として木質チップやバイオマス発電燃料材など、製材や合板以外での木材利用が普及しており、木材流通の多様化がさらに進展している。また、屋内の内装材などとして広葉樹材の需要が増している一方で、その流通量に不透明な点が多い。今後の県の林業・木材産業の振興施策に活かしていくために、木材流通の現状を把握することが必要である。本研究では、平成29年に森林課が実施したアンケート調査をもとに、素材生産者、木材加工業者等の林業事業者に対して木材流通の実態について聞き取り調査を行う。また、当時のアンケートでは収集できなかった広葉樹（特にマテバシイ）材の流通状況についても聞き取り調査を行う。

[成果内容]

- 1 素材生産業者への聞き取り調査の結果、製材・合板用に比べてチップ用材としての出荷利用がやや多かったが（表1）、作業効率をよくするために、木質が良材でもチップ用材として取り扱うという業者もあり、素材全体の価格が低下している要因の一つであると考えられる。また、県内で発生している非赤枯性溝腐病被害材については、欠点部分を除去して使う業者、すべてチップ用材にする業者、ほとんどもしくは全く扱わない業者があり、業者ごとに利用方針は様々である（図1）。
- 2 木材調達における重要視している点について、木材加工等業者へのアンケート及び聞き取り結果をまとめた。木材調達において重要視している点は、県内産材であることを重要視する意見が最も多い回答であったが（図2）、その主な理由は運送コスト等が安価であるためであり、品質はあまり考慮されていなかった。また、県内産材の積極的利用のために必要なことについては、回答が多い順に材の安定的な供給、価格の安定であった（図3）。

3 森林組合及び木材市場に対して広葉樹材の流通について聞き取りをした結果、森林組合は、森林整備の際に良材があった場合のみ市場へ出荷しているとのことである。木材市場は、全体の取扱量のうち広葉樹はケヤキを主とした1割程度で、マテバシイは扱っていないとのことである。マテバシイ素材生産者へ素材の卸し先を聞き取った結果、マテバシイ材は近年、サバ節燻煙材用としての出荷が主で、シイタケ原木として卸すのは減少しているとのことである。

[留意事項]

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

行政や林業普及関係機関を対象に、施策への活用を図るため、試験研究成果発表会等を通じ情報提供を行う。

[普及状況]

[成果の概要]

表1 県内素材生産者の生産量とその利用先の聞き取り調査（平成30年度実施）

事業者	素材生産量（m ³ ）			素材の販売先における利用			
	取扱量 合計	元請け	下請け	製材・合板用 （m ³ ）	割合 （%）	チップ用材 （m ³ ）	割合 （%）
A社	14,947	2,392	12,555	3,886	26.0	11,061	74.0
B社	8,000	6,000	2,000	5,200	65.0	2,800	35.0
C社	3,699	3,514	185	2,589	70.0	1,110	30.0
D社	2,000	50	1,950	1,350	67.5	650	32.5
E社	600	180	420	300	50.0	300	50.0
F社	2,000	2,000	0	200	10.0	1,800	90.0
計	31,246	14,136	17,110	13,525	43.3	17,721	56.7

注1) 聞き取り対象業者は平成29年に森林課が実施したアンケート調査をもとに、従業員数、取扱量、会社所在地等を勘案して選定した

2) 内訳については、アンケートや聞き取り調査において回答のあった取扱量に占めるおおよその割合から算出した推定値

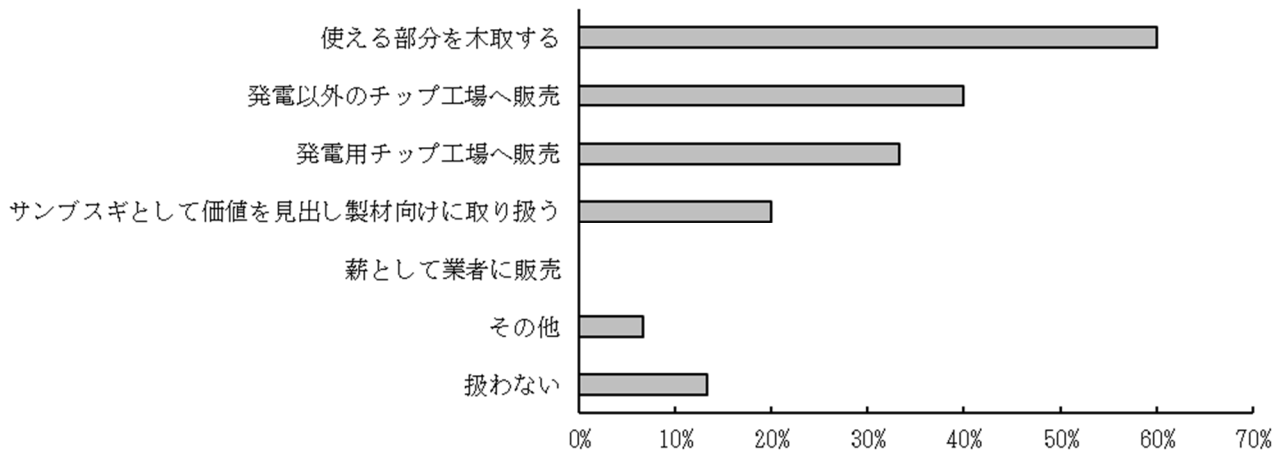


図1 非赤枯性溝腐病罹病材の取扱い方針（複数回答）

注）素材生産者 15 社を対象にアンケートと聞き取り調査の結果をまとめた

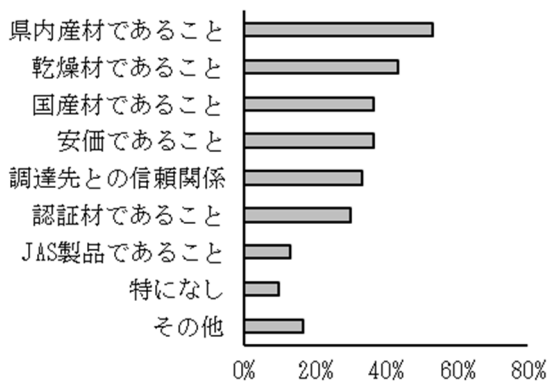


図2 木材調達において木材加工業者が重要視する点（複数回答）

注）木材加工業者 30 社を対象

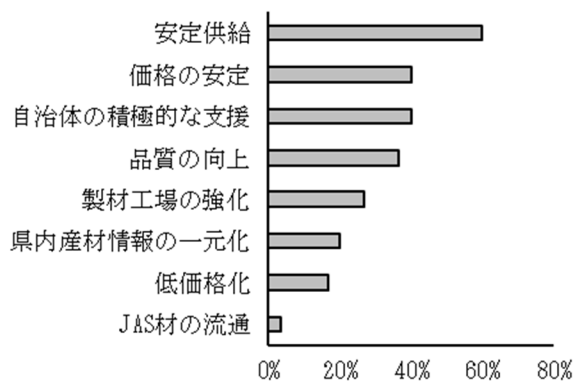


図3 県内産材を積極利用するために必要なこと（複数回答）

注）回答者は図2に同じ

[発表及び関連文献]

令和3年度試験研究成果発表会（林業部門）

[その他]

1 木材の分類と利用

木材を品質で分類する際、良質の物から通称でA材、B材、C材、D材と分類されており、A材は製材用、B材は合板や集成材用、C材は木質チップ用、D材は燃料材用を指している。近年は木材を利用したバイオマス発電が活発になっており、特にチップの需要が高まっている。一般的に、A材とB材はC・D材よりも高値で取引される。

2 マテバシイ

ブナ科シイ属の常緑広葉樹。かつてはノリ養殖や炭焼きによく使われたため、県南部を中心に植樹され極相林を形成しているが、近年は木材としての利用が進んでおらず、材積が蓄積している。樹冠を覆ってしまうために林床が暗く、下層植生が発達しにくいため土壌が露出し、土壌流出の恐れが高くなっている。